

本文を通読した後、次の空欄に適当な語を入れなさい。同じ語句が入る場合もある。

第一段〔初めく九・六〕

二〇〇五年に開催された愛知万博では、〔①〕の排出が削減された。食器を〔③〕を使うことで、大量の〔②〕の排出が削減された。食器を〔③〕
 〔こと〕でゴミを減らし、また二酸化炭素を出さないような製品を使用したためである、環境との〔③〕を謳った愛知万博らしいせいかである。しかし、容器を〔④〕
 〔すること〕の後ろめたさを感じなくなったという点において、〔⑤〕が〔⑥〕に肩代わりされてよいのだろうか、という疑問が生じる。

第二段〔九・七く一一・三〕

本来、私たちは自らの〔⑦〕と〔⑧〕によって地球環境を守るよう求められている。〔⑨〕に行動こそが重要で、その意識は人間が持つべき〔⑩〕とし、
 定着しつつある。〔⑩〕を〔⑪〕とすべきかもしれない。を身につける人間が増えることが、人類の〔⑫〕
 〔と言えよう。しかし、そのような個人の〔⑬〕を涵養するのではなく、〔⑭〕によって問題が発生しないように前もって手を打つていくことが増えている。確かに、公衆の〔⑮〕と安全が保たれ、〔⑯〕に優しい行為が〔⑰〕
 〔に行われるのだから、結構なことと言わなければならない。しかし、〔⑰〕が発達すれば、その分だけ私たちの体や頭脳の〔⑱〕が失われていくことに注意する必要がある。知らず知らずのうちに私たちが〔⑲〕に持っている能力を失っているのだ。これと同じとすれば、〔⑳〕が〔㉑〕の代行をするうちに、私たちが〔㉒〕
 〔的に持ち、あるいは成長の過程で獲得してきた〔㉓〕な判断力が〔㉔〕
 〔いくことにならないだろうが、本来の〔㉕〕な目標が忘れられ、ただ〔㉖〕が命じるままに行動しているだけになりかねない。

第三段〔一一・４く終わり〕

このような技術が当たり前になってしまうと、ひよっとすると人間は〔㉗〕を失った〔㉘〕
 〔同然の行動しなくなりかねない。人々の〔㉙〕を涵養しどのように〔㉚〕
 〔を決めて行ける人間であり続けねば、社会は荒廃してしま
 うだろう。その意味で〔㉛〕を〔㉜〕で置き換えることの危なさを考えておくべきではないだろうか。